

夢追い人

maf pintoの商品を通してもらいたい

— maf pinto マフ ピント

住所:〒831-0016
福岡県大川市酒見201
Instagram:@maf_pinto

— 古賀 藤俊さん



今月の夢追い人はmaf pintoの古賀 藤俊さんにお話を伺いました。

maf pintoは、元々ECサイトやイベントを中心、革小物の販売をされて

ありました。昨年10月に大川市酒見に実店舗をオープンされました。

「事業内容は革小物の製造販売で、基本的にはほとんど1人で作っています。ブランド名の『maf pinto』は

『ピントを合わせる』が由来で、モノに依存しすぎないという考え方をベースにしています。

高いモノを買うと大事にしきぎて、本来の使い方ができていらない人も多いと感じていて、もっと自分らしく使ってほしいという思いを込めています。

『自分のピントを合わせる』自分の目線でモノを選ぶ」という意味もあって、そんな雰囲気で名前を決めました。小さな店舗でもショールームのような感覚で、商品を少し見ていただけて、メンテナンス

なども受けられる場所があればいいなと思って、実店舗をオープンしました。木工つまりのイベントで商品を見てくださった方やインスタグラムをフォローしてくださつた方が、店舗まで足を運んでくれたときは嬉しかったですね。ネットだと全国の方に来てもらえる一方で、店舗に来ていただけるお客様はやはり限られているので、なおさらありがたさを感じました。

maf pintoではどのような種類の革を使用しているのでしょうか。それぞれの特徴や魅力も教えてください。「主に2種類の革を扱っています。まず1つ目は『バケツタレザー』です。10色展開で、使い込むほど味が出て色が深

maf pinto



まり、自然なツヤが生まれてくるのが特徴です。まさに、『自分で色に染まる』革ですね。2つ目は「イタリアシュリンクレザー」で、2020年からADRIALINE（アドリアーライン）として展開しています。こちらは傷や擦れに強く、水に濡れても安心な耐水性を持っていて、バケツタレザーとは逆に色落ちや経年変化が少ないのが特徴です。

14色展開で、女性に人気のカラーもそろっています。味を楽しみたい方にはバケツタレザー、あまり変化させすぎじゃないまま使いたい方にはイタリアシユリンクレザーと、それぞれに合う素材をご提案できることだと思います。全部で24色展開なので、きっと欲しい色が見つかりますし、長く自分らしく使っていただけることを大切にしています。

こだわりのある素材はどのように仕入れられているのでしょうか。日本でもレザーの展示会が開かれていて、そこへ足を運んで気に入ったレザーを扱う間屋さんと話をしながら、日本のタンナーさんを通してイタリアのレザーを仕入れています。『皮が革になる』というように、タンナーさんの技

術によってレザーの良し悪しが大きく左右されます。色の出方や味わいなど、その魅力を決める大切な工程なんですね。

maf pint oでは、機能面やデザインで工夫されていることがあるそうです。「maf pint oの商品は、あえて機能性を限定していく。なんでも入れられるような多機能ものは作っていない。」

なんでも入れられるよう

多機能なものは作っていない。というのも、機能が増えるほど、どうしても本来は不要ないものまで一緒に入れてしまいがちだからです。なので無駄をそぎ落とし、本当に必要な形だけを丁寧に残しましたデザインを心がけています。

また、すべての型で24色展開を続けていることも、ほかのブランドには負けない強みだと思います。この多色展開自体が、maf pint oの大きな戦略のひとつでもあります。

レザーブランドを立ち上げるきっかけは何だったのでしょうか。「僕は生まれも育ちも大川市で、ブランドを立ち上げる前はレザーを扱うブランドで販売員として働いていました。革に触れたり、お客様に販売したりするうちに、自分でも作ってみたいなと思うようになっ

たんだんです。読書が好きなので、まずはブックカバーを作つてみたんですが、レザーで作つてみたのですが、思つた以上にいいものができます。なんでも入れられるよう

に載せたのがスタートでした。出品してみようとネットにつながっているんだと思います。

なったんです。読書が好きなので、まずはブックカバーを作つたんですが、僕自身はこのシンプルさが良いと考えています。例えばシンプルなデザインにすることでの、自然と身の回りを整理でき自分らしい使い方につながる。こうして感覚や自分らしさを表現することができ、僕にとってのものづくりの大重要な軸です。」

自分で自由に続けてこられたからこそ、大切にしている軸があるそうです。

「僕が仕事をする上で大切にしているのは、『自分らしく作る・デザインする』ということです。自分のブランドを通して、自分の感覚や考えを表現できるかを常に意識している。その中で意識しているのが、便利さを追求しすぎない」ということです。便利という言葉 자체は素晴らしいのですが、追求するとどんどん機能が増えてしまい、本来必要なもの今まで入ってしまうことがあります。だから、あえて機能性を限定して、無駄をそぎ落とし、本当に必要な形だけを丁寧に残したデ

夫である24色展開はしっかりと守り続けたいです。僕が作る商品は、単にモノとして便利であるだけではなく、使う人それぞれの生活や時間を少しでも豊かにする存在であつてほしいと考えています。

maf pint oの商品は、デザインを心がけています。小銭入れなら小銭しか入らず、お札入れならお札やカードしか入らない。実用性だけを求める方には他の商品をおすすめしますが、僕自身はこのシンプルさが良いと考えています。例えばシンプルなデザインにすることでの、自然と身の回りを整理でき自分らしい使い方につながる。こうして感覚や自分らしさを表現することができ、僕にとってのものづくりの大重要な軸です。」